

## 韓国微生物検査学会(KSCLM) 参加報告書

参加者 : 7 名

〔行程〕 : 11 月 2 日(木) 渡韓・ソウル市内にて合流

3 日(金) 検査室見学, 日韓会議; Samsung Medical Center, Seoul

4 日(土) 대한임상미생물검사학회 추계 학술대회 参加, 検査室見学  
(大韓臨床微生物検査学会秋季学術大会)

Yonsei University Severance Hospital, Seoul

5 日(日) 解散・各自帰国

〔発表〕 シンポジウム:

「일본에서의 혈액배양검사 실시 상황과 Diagnostic Stewardship 대처 사례」 Takeya Ohshiro  
(邦題: 日本における血液培養検査の実施状況と Diagnostic Stewardship 取り組み事例)  
ポスター発表

「A case of *Mycobacterium obuense* Bacteremia」 Hitoshi Kuramae

大韓臨床微生物検査学会に 7 名で参加し、シンポジウム・ポスター発表及び 2 病院の検査室見学を行った。韓国は大規模な病院が多く、延世セブランス病院は 2,400 床以上の規模で微生物検査室の使用培地量は圧巻の規模であったが、一部の培地は用手法で準備する特徴も認めた。

培地の組合せは薬剤耐性菌を積極的に検索する方法で行われており、質量分析器は Vitek MS、MALDI Biotyper の両方、自動同定感受性機器は MicroscanWalkaway、Vitek2 の両方を用意して使い分けしていると説明され、大規模病院ならではの感じられた。なお、寄生虫検査で最も分離される病原体を伺ったところ肝吸虫との回答であり患者背景の違いを感じた。



ファン・ユヨン会長(右)



血液培養:  
400-500 セット/日  
陽性率 約 5%



写真の培地は 1 日で全て使用



文責: 静野